

弥陀次郎川被害で府報告

機械手配に時間 再度の浸水招く

京都府南部豪雨で決壊した宇治市の弥陀次郎川で再び水が流出した問題をめぐり、同川を管理する府は20日の災害対策本部会議で、鉄製の板を打ち込む仮復旧工事に間に合わなかった理由について「工事に必要な特殊機械の手配に時間がかかった」と報告した。お盆の期間に重なったのが主な原因だが、災害の発生時期にかかわらず迅速に復旧を行う体制づくりが府に求められる。

仮復旧完了 今夜の見通し

弥陀次郎川は13日14日の豪雨で約25メートルにわたって両岸が決壊。府は15日早朝に土のうを積んで流出を止め、その後土のうを積み上げたが、大雨に見舞われた18日午後3時には再び増水して土のうの一部が崩れ、住宅地に床上床下の浸水被害を

引き起こした。土のうに加え、鉄製の板を打ち込んで強度を増す工事も計画していたが、打ち込みに必要な特殊機械が到着したのは18日午前だったため、当時降っていた雨で作業に入らず、2度目の流出を防げなかった。

府は「現場は全力を挙げていたが、お盆の休みなどで連絡がつかない業者も多く、特殊機械の確保に時間がかかった」と説明。決壊部分の仮復旧工事がすべて完了するのは21日

夜の見通しという。対策会議で、山田啓二知事は「弥陀次郎川が再び決壊する事態を招いた。本心に残念だ。このようなことが起こらないよう全力を挙げ」と述べた。

また、山田知事は弥陀次郎川が決壊した原因調査に加え、府内の他の天井川についても早期復旧へ要望書

二知事に対し、通行困難が続く宇治市山間部の府道や決壊した弥陀次郎川の早期復旧などを求める8項目の要望書を提出した。

京都府南部豪雨で、京都府南部豪雨で、京都市は20日、中京区の市役所本庁舎1階正面玄関内所と各区役所・支所の地域力推進室の計15カ所で義援金の受け付けを始めた。9月28日まで。



京都府南部豪雨で山腹が崩壊した現場(宇治市炭山) 府提供

府南部豪雨

農林業被害 6億円増

林業分など加え 7億7400万円に

京都府は20日、府南部豪雨に伴う農林業関係の被害について、同日現在で7億7496万円に上ることを明らかにした。林業関係の被害が新たに加わったこともあり、総額が16日時点のまとめより6億円近く膨らんだ。府によると、林業関係では山腹が崩壊した連り、増水した川で林地冠水が分かったことで被害額が1億8946万円となった。農地・農業施設関係は農地56カ所、揚水機や水路など施設77カ所の計133カ所で被害が発生し、9500万円。府は「被害状況の調査は続いているため、農林業関係の被害額は今後増えてくる」としている。

(高橋晴久)